

## 【研修プログラム詳細】

今回は5つのプログラムを設定しました。いずれも「人」に関するプログラムで、自身がチャレンジしたい分野・関心ごとから選択することができます。

### ① 村内アーティスト(木工芸・アート)応援プログラム

- ・本村は、**村立高校「北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（通称:おと高）」**をはじめ、森林資源や芸術文化が豊かな村です。
- ・村内には、誰でも気軽に木工体験ができる木工体験施設「木遊館（もくゆうかん）」があり、指導員スタッフには、おと高卒業生の木工アーティストが常駐しています。また、芸術文化施設として、世界的彫刻家「砂澤ビッキ」が、生涯制作拠点としていたエコミュージアムおさしまセンターがあります。現在、施設スタッフに空間アーティストの肩書きを持つ、地域おこし協力隊が常駐しています。このプログラムでは、“**おと高卒業生や地域おこし協力隊のような、村の芸術文化に興味を持ち、移住し村で創作活動をする村内アーティスト**”に着目し、**どのような形で村として地域として応援ができるのかを探ります。**
- ・特に木工体験施設の木遊館は、スタッフ常駐や加工機械も充実している一方で、技術指導スタッフの人員不足問題や、施設のさらなる利活用も求められています。
- ・**村の重要な資源・人材でもある“アーティスト”を、どのように村や地域として応援していくことが最適か。一步踏み込んだ視点で村内アーティストだけでなく、地域外で活躍するおと高卒業生アーティストと村との関わり、離れた地域からの応援の仕方なども、村民一人ひとりと対話する中から見えてくる小さなアクションにチャレンジしてください。**



### ② 公共交通機関(鉄道・村内巡回バス)・駅内空き店舗の利活用プログラム

- ・本村は、かつて鉄道の要衝地として栄え、鉄道と共に地域が発展してきた歴史があり、北海道で一番人口が少ない状況になっても、4つの駅を村で維持管理をして守っています。全国的に見ても、620人という人口規模の自治体で、特急列車が停まる駅があるというのは珍しく、村の大きな強みだと感じています。
- ・村の公共交通機関には、鉄道のほかに村内を無料で巡回するバス（地域バス）があります。どちらも地域にはなくてはならない公共交通機関である一方、村民の利用頻度は高いわけではないという現実もあります。また、かつて音威子府駅内には「黒いそば」の名を全国的に有名にした駅そば店舗や、宗谷バス窓口がありましたが、さまざまな事象が重なり、昨年10月にはどちらも空き店舗となりました。（駅そば店舗は、2021年2月から）
- ・公共交通機関を村民が利用する頻度の有無だけで、廃止か存続かという極端な判断は、簡単に地域自体も無くしてしまうことにつながるのではと危惧しています。**村民一人ひとりと関わる中から、利用**



頻度だけではない公共交通機関の価値や利活用案を見出し、小さなアクションにチャレンジまたは、音威子府駅内の空き店舗利活用案や継続的な利活用プランについて、村民や職員と一緒に考え小さなアクションを起こしてください。

### ③ 寒さも吹っ飛ばす「継続性重視の冬のイベント企画考案」プログラム

- ・本村は、道内でも有数の豪雪地帯です。毎年1～2月は、積雪量が2m近くに達し、昨年の2月は最深積雪261cmを記録しています。
- ・現在、村の冬のイベントは、全日本クロスカントリー大会の開催のみに留まっている状況です。全国から数百人の選手が集まってくる大会ですが、村民が楽しめる冬のイベントにはなってはいません。30年前までは、「雪を楽しむ会」という名称でスキー場にて雪だるまコンテスト、そばの早食い、そり滑りなどを行うイベントを教育委員会主催で15回実施。その後、2012年までは「おといねっぷ夢あかり」という天塩川温泉や高校寮横にて、有志実行委員会主催によるランタン点灯や、かまくら・雪だるまを作るイベントが5回実施されました。
- ・人口が少なく限られたマンパワーの中で、継続的な企画を行っていくことは簡単ではありませんが、半年も雪まみれになるこの村で、冬でも村民が元気に活動できるイベント企画を一緒に考えましょう。
- ・今回は、過去のイベントに携わっていた村民の方を中心に、村民が求めるイベントとは？継続性のある実行体制とは？などなど、企画を一緒に考えてもらう中で、今の自分にできる小さなアクションにチャレンジしてください。そもそものイベント開催の意味を探る中から、柔軟な発想や将来を見据えた思考が重要です。



### ④ シティプロモーション(ポスター制作・SNS活用)プログラム

- ・シティプロモーションの第一段階として、地域に暮らす方々自身が「地域の魅力」を知り、楽しむことが重要になります。住み慣れてしまった地域の魅力に気付くのは、意外と難しいことです。
- ・このプログラムでは、**村の広報記事(SNS・広報誌)作成やポスター制作という手段を通して、インターン生が村民と関わる中で見つけた村の魅力を、村民(ウチ)とソト両方にPRしていただきます。**単にSNSで発信する、バズる動画を撮影するだけという「手段の目的化」に終始してしまわないことと、ソトの人たちの反応ばかりに関心を向けすぎないことが、今回のプログラムではポイントとなります。
- ・限られた研修期間の中で、どうすれば「村民一人ひとりの暮らしを豊か」にすることができるのか。**村民620人と直接向き合い、自らコミュニケーションを取る中から、「今の自分にできること」を見つけ、小さなアクションにチャレンジしてください。**
- ・インターン生が滞在し、村民と直接関わる中から、どのようなことを見いだせるか、それをどう地域へ還元できるかを、行政職員や学生メンターのフォローを受けながら考え、描いていただきます。



## ⑤「大学生と村民との『協働デザイン』プログラム」

- ・これまで村が取り組んできた「都市圏学生交流推進事業」や、本インターンシッププログラムは、ありがちな地域内外交流や、大学生からの一方的な提案を求めることを目的とせず、大学生と村民が中長期的に協働する「プロセス」を重視したプロジェクトです。
  - ・オンラインや対面での協働の中から、**大学生自身が村のことを「自分事」として捉え、村民も改めて自分たちの地域のことを正面から再考することへとつながり、地道な議論と小さな試行の積み重ねによって、将来の地域活性化へと展開していくことが目的**です。
  - ・村とゆかりのない大学生が、村と関わりあうことにより何が生まれるのか？村民にはどんな変化が起こりうるのか？それらのことを、タクティカルアーバニズムの考え方から、小さなチャレンジを常に繰り返してきています。
  - ・今回のインターンシップは、行政職員だけではなく、外部人材の「学生メンター」や「アドバイザー」が関わり、地域内外の人たちによって協働デザインが行われています。今回のように、「**大学生と村民とがどう関わりあうことができるか**」を考える、**デザインすることを目標に、自身に何ができるか、小さなアクションをどう起こせるかを考えてみてください**。
  - ・希望と本人の能力審査により、今回のインターン時点からインターンシップ運営側（学生メンター）での関わりも可能です。また、今回のインターン後、サマーインターン（来年予定）の準備段階から関わるのが、今回参加するインターン生すべてに権利があります。このプログラムは、冬季のみの参加も可能ですが、夏季（サマーインターン準備・運営）までの長期参加もおすすめします。
- ※どのプロジェクトも成果物（アウトプット、成果報告）は、必須ではありません。



以上